

日本経済新聞

10月30日
水曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 03-3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 06-6943-7111
名古屋支社 052-243-3311
西部支社 092-473-3300
札幌支社 011-281-3211

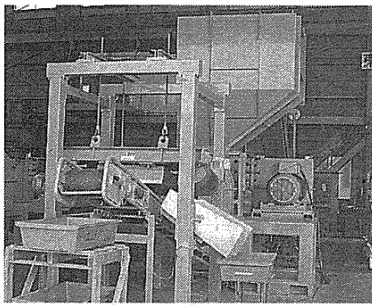
漁網から金属資源回収

EMダイヤ 新装置、小口需要も開拓

産業機械メーカーのEMダイヤ(富山県滑川市)は廃棄される漁網や自転車タイヤを分離、破碎して金属資源を取り出す装置を開発した。主力とする自動車の廃タイヤや廃家電から金属を選別する装置と同様の大型機種に加え、小型で価格の安い機種も投入。廃棄物の量が少なくても採算が合うようにして小口需要も開拓し、収益源を多様化する。

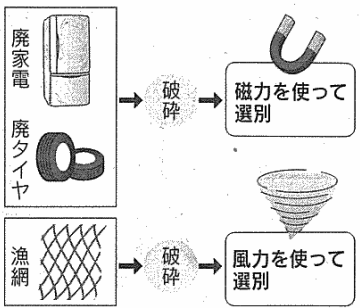
小型・低価格で 自転車廃タイヤ用も

漁網は海中に沈めると、在、漁網を廃棄する際は、は磁力に反応しないため、鉛をロープに編み込め、手作業で鉛を分離して、同社の漁網用装置は、鉛風力を活用して選別する



EMダイヤの装置はコンパクトなのが特徴(滑川市の本社工場)

EMダイヤの装置の仕組み



独自の仕組みにした。漁網を細かく破碎した後、渦巻き状に起こした風で、重さの違う樹脂と鉛を選別する。

風力を使って金属資源を回収する仕組みは電子部品出荷用テープを粉碎、選別する装置に採用した実績がある。これまで同社が主力としてきた廃家電、自動車の廃タイヤ用装置は重量にして10ト程度、価格は数千万円クラスが主流。漁網用装置は1・5ト、900万円〜1500万円から供給できるようにする。

漁網用装置は回収した金属を精錬会社など販売する廃棄物処理の事業者のほか、小型の機種を軸に各地にある漁業者の組合などにも売り込む。まずは震災により多くの漁網を廃棄する必要があるという東北地方に対し重点営業する。

自転車の廃タイヤから磁力を使い、針金状に埋め込まれた金属を分離、破碎する装置も投入する。手作業で選別をしている事業者からの要望を受け、すでに試験運用を始めており、1号機は年内に販売契約を交わす見通しだ。

EMダイヤは新機種投入の効果などを期待、2014年12月期の売上高は今年見込み1・5倍の3億円を目指す。

分、破碎できるという特徴がある。漁網用や自転車の廃タイヤ用の小型装置もこの仕組みを生かして、製作する。

廃棄物から金属資源を取り出す装置は段階的に細かく破碎していくため、複数の装置をつなぎ合わせる必要がある。同社の機械は固定した刃と動く刃を組み合わせ、すりつぶすような方式を採用。比較的小さな機械で

漁網用装置は回収した金属を精錬会社など販売する廃棄物処理の事業者のほか、小型の機種を軸に各地にある漁業者の組合などにも売り込む。まずは震災により多くの漁網を廃棄する必要があるという東北地方に対し重点営業する。

自転車の廃タイヤは磁力を使い、針金状に埋め込まれた金属を分離、破碎する装置も投入する。手作業で選別をしている事業者からの要望を受け、すでに試験運用を始めており、1号機は年内に販売契約を交わす見通しだ。

EMダイヤは新機種投入の効果などを期待、2014年12月期の売上高は今年見込み1・5倍の3億円を目指す。